

式辞

「うれしさは 春の光を 手で掬（すく）い」

「うれしさは 春の光を 手で掬（すく）い」（野見山 朱鳥 のみやま あすか）

何かを始める、何かをスタートさせる春という季節は、なんとなくウキウキとしてきます。そんな春の輝く光を手で掬いとれると感じるくらい、「うれしい季節」です。

みなさんも中学生という年代を励み始めます。それが今日からです。

今日のような、光の輝きを手にとれる春のよき日、たくさんのご来賓の皆様のご臨席たまわり、さらに、多くの新入生保護者の皆様のご出席を頂戴し、春日部市立東中学校第57回入学式を挙げていきますことに、衷心から御礼と感謝を申し上げます。

ただいま、呼名をもって確認させていただきました175名の新入生の皆さん、東中学校という、市内屈指の歴史と伝統のある本校への入学、おめでとうございます。本校教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、本日の入学をお喜びの保護者の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

さて、新入生の皆さん。皆さんは今日から中学生です。そこで、私からお祝いの言葉として、次の二つのお話をしたいと思います。

一つ目は、今年57年目を迎える東中が進む方向です。

二つ目は、年度の初めの四月という月について話します。

では、一つ目のお話です。

先ほどから申し上げているとおり、春日部市立東中学校は、今年、開校五七年目を迎えます。半世紀を超える歴史は、ある意味で人の生涯にも匹敵する数値です。これが、百年、千年と続くことを願いながら、母校の誇りを胸に、毎日を生活してください。そして、学校教育目標の目指している生徒の姿、「意欲ある生徒」「協力し合う生徒」「責任を果たす生徒」「感謝のできる生徒」「夢をもつ生徒」の五つを忘れないことです。忘れないためにも、今年には次の言葉を使いたいと思います。

「スマート東中57」「スマート東中57」です。

「スマート」という言葉は、現代社会を最も端的に表現している言葉です。スマートフォン、スマートインターチェンジなどです。

そして、姿・形や行動がかっこいいことを指します。ですから、かっこいい東中を地域社会への責任として示していきたいという願いから、この「スマート東中57」を今年のコネクトとしての、合言葉、キャッチフレーズにしました。具体的には次の三つのことを言葉や姿、行動でスマートに見せてください。

一つ目は、「あいさつ」と「笑顔」を大切にすることです。これは周囲との関係をよくして、「いじめを生まない環境、いじめを生まない土壌」づくりの基盤となります。スマイル

です。

二つ目は、「自信」を「信頼」に高めることです。英語で言うと、ともにコンフィデンスという言葉になります。自分やクラス、東中の自信は、周囲や社会からの信頼につながります。つまり、自分で自分を律していける力が「自信」であり、それが周囲からの「信頼」につながるのです。コンフィデンスです。

三つ目は、「責任」ということです。自信から信頼に高めることで、それは、自分の責任を果たす姿となって現れるということです。地域社会に「責任」ある姿として示しましょう。「スマート東中57」を忘れずにいてください。

では、大きな二つ目のお話に変わります。四月という月は「希望」の月です。どんな四月にしたいのかお伝えします。

四月は「希望」の月です。希望を語りましょう。

四月は夢を抱く月です。夢を抱きましょう。

四月は志を確かめる月です。志を確認しましょう。

希望や夢や志は、目的になり、目標になります。

そして、それは課題となって、いつか必ず現実になります。実現します。

ただし、目標は、計画や準備があって、はじめて「目標」となります。

ただこうしたいと思うことは目標ではありません。ただ思うだけでは「願い事」ではありません。こうしたい、こうなりたいと思うことは大切ですが、それだけでは目標にはなりません。夢や希望を「願い事」ではなく、目的や目標にするために、計画を立てて準備を始めましょう。それが、四月です。

では、まとめをします。

一 「スマート東中57」です。笑顔とあいさつ、自信から信頼へ、そして、責任を果たしましょう。

二 四月は希望の月です。希望をただの「願い事」にしないで、計画と準備を持って、希望を「目標」にしていきましょう。

これを中学校入学のお祝いの言葉としてみなさんに贈ります。今日からいっしょにがんばっていきましょう。

さて、保護者の皆さま、本日の入学の喜びはひとしおであろうと想像いたします。お子様のご誕生から幼稚園・保育園への入園・卒園、小学校入学、そして、卒業。今また、中学校への入学と、日に日に成長するわが子の姿は、親としての喜びであり、楽しみでもあらうと思います。

今日からは中学生です。大人へと成長していくためにも、大人の矛盾を指摘し、大人の言動に反抗をする年代です。そうやって、反抗することで、自分の価値観・人生観を確かめ、自分の対人関係をもって、自分の人生を生きていくことになります。これが大人にな

るということだと考えます。反抗期は「大人になる」ための必要不可欠のプロセスです。

しかしながら、最近は次のようなことが言われています。子どもが大人になることを妨げている親がいる状況がある、という内容です。親の絶対的な価値観を享受するだけで、自分自身の価値観が形成されないような状況です。

失礼な部分があるかもしれませんが、あえてさらに具体的にお話いたします。子どもが反抗するためには、「安心感」が必要です。それは、自分がどんなに反抗しても、まあ、親はもつだろうという安心感です。それがないと、子どもは安心をして反抗期を迎えられません。子どもはそれほど優しい存在なのです。親の不安定さ、支配力の強さ、子どもに対するひどい全否定があると、子どもは優しいですから、「反抗」を選択しないで過ごしていきます。このような反抗期を経験できないでいる子どもが出始めたという、かなり深刻な問題がここ最近注目されています。

そこで、ぜひ、中学生という、大人になるためのプロセスとして「反抗期」が無事迎えられるよう、学校とともに共同で子育てをしていきましょう。そして、保護者の皆様、地域の皆様、本校教職員と一致団結して、みなさんで東中学校の生徒たちを将来の宝として育てていきましょう。そのために、いつでも本校の職員にご相談ください。また、小学校の先生がたとも、地域の皆様とも連携・協力してまいります。そうして、地域の子どもたちの成長の支援ができればと考えています。どうかよろしくお願いたします。

結びにあたり、本日ご多用のなか、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様に、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

先ほども申し上げましたが、今年度本校は57回目の春を迎えることができました。平成の年号も残すところ一年ほどの時代となりました。本校の60周年の時には、東京オリンピックが終了し、2020年台に突入しています。これから東中学校は、時代感覚を研ぎ澄まし、新たな意識で、新しい時代に沿った教育を進めると同時に、古き良き伝統や文化を「記憶の継承」として大切にしながら中学校教育を進めて参ります。これからも、東中学校を地域の学校としてご支援賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。

平成30年4月9日

春日部市立東中学校 校長 船田年男